Over the Rainbow

大阪教育大学　国際センター発行　『オーバー・ザ・レインボー』2014年2月発行

vol.14

TOPICS

■日本留学フェア～韓国
■スタッフ紹介
■第4回国際センターシンポジウム
■奨学金贈呈式（留学生後援会）
■地域の国際交流団体による交流活動
　ホストファミリープログラム
　門松づくり体験
　留学生講演「異文化の暮らしを学習しよう」
　ぶどう狩り体験
■日本文化研修
　夏季日本文化研修（浮世絵体験）
　秋季日本文化研修（姫路方面）
■平成25年度後期修了・卒業留学生メッセージ
■国際センターの活動
　韓国文化体験研修
　ドイツ語学研修
　アメリカ語学研修
◆留学生後援会入会のお知らせ

巻頭言

大阪教育大学　教養学科長　高橋 誠

『多文化共生社会を拓く力』

写真：平成25年10月　秋季日本文化研修（姫路城）にて

巻頭言

多文化共生社会を拓く力

大阪教育大学　教養学科長　高橋 誠

今の社会では、他者にない「個性」や「特徴」が問われることが多い。「個性」や「特徴」がなければ平凡であり、存在意義がないとでも言わんばかりである。オンリーワンという言葉が流行ったことも記憶に新しい。こうした言葉は、他のものとの「違い」を求めよ、と私たちに要求している。

確かに私たちの日常の思考の大部分は、「違い」を見つけることに基づいている。「違い」が理解できないものは一般的に、役に立たない、有用性がないといえる。意義を見つけるためには、他との「違い」を把握しなければならない。また、私たちは自分の行為が原因となって、物事の状態が変化すること、すなわち「違い」が生じたという結果を観察する。人間の思考で最も基本的な「原因と結果」との関係把握のためにも、「違い」をイメージの中で結びつける必要がある。

「違い」を見つけるのと同様に大切なことは、共通した性質、すなわち「類似性」を見つけることである。私たちは事物や事象の本質的な特徴から概念を形成し、対象を特定の概念に対応づけるカテゴリー化を行う。例えば、「リンゴ」といった具象的な概念から「真実」「正義」といった抽象的な概念もある。カテゴリー化は、心に表象する対象の複雑性を単純化するのに役立っている。この単純化は「真実」と「虚偽」、「正義」と「不義」といった二項対立、すなわち二つの概念が矛盾または対立の関係にある言葉が多いことをみれば理解しやすい。

こうしたカテゴリー化を行うことは、言語の違いをこえて人間に共通する普遍的な特徴であり、複雑さを単純化し情報処理の負荷を低減していることでは人間の思考の長所といえる。その反面、過度あるいは安易な単純化は「ステレオタイプ」といわれる短所も生じる。「ステレオタイプ」とは集団やその構成員に対する固定観念的な歪められた思考の枠組みのことであるが、自分が所属してない集団（外集団）に対しては容易に生じやすい。例えば、「関東人は･･･だ」のように、単純な大括りのカテゴリー化をしがちである。

「カテゴリー化」の思考は長所も短所も併せ持っているが、そもそも人間やその集団に対しては「役立ち」「有用性」という価値基準から単純化しない方がよい。そして、私たちの無意識的な思考に存在する概念化やカテゴリー化の落とし穴から抜け出すには、多元的な捉え方を意図し、複雑さを受け止める力を身につけることが必要であり、それが多文化共生社会を拓く力となるのではないだろうか。

スタッフ紹介

国際係員　津田翔平

2013年9月に新規採用され、国際係に配属されました津田翔平です。留学生との関わりが多いという事で、様々な文化に触れる機会が多くなる事を楽しみにしています。外国語が堪能ではない私は就任当時非常に不安でしたが、皆さん日本語がとても上手で驚きました。しかしその裏には勉学に励んだ彼らの努力があったのだと思います。

母国とは違う環境で勉強する事は大変だと思うので、彼らがより良い環境で勉学に励めるよう、サポートしていきたいと思います。よろしくお願いします。

平成25（2013）年度日本留学フェア in 韓国（釜山・ソウル）

9月に韓国の2会場で開催された日本学生支援機構主催の「日本留学フェア」に参加しました。本フェアは日本へ留学を希望する高校生や大学生等を対象として世界各国主要都市で毎年開催されており、大阪教育大学は5月のベトナムに続く参加となりました。本学ブースの訪問者数は下記のとおりで、2会場を通じて66名のフェア参加者がブースを訪れ、担当教員に熱心に質問する姿が見られました。

本学ブース訪問者数

9月7日（土）釜山会場……32名
9月8日（日）ソウル会場……34名

第4回 国際センターシンポジウム
「国際協力シンポジウム――国際教育協力の未来」を開催

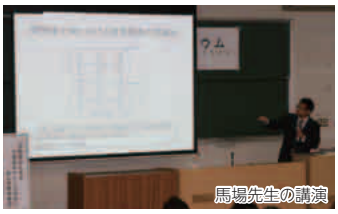
「国際協力シンポジウム―国際教育協力の未来」をテーマとした、本学国際センターの主催による第4回国際センターシンポジウムが11月27日（水）開催され、学生、教職員ら約90人が参加しました。向井康比己・国際センター長の開会挨拶のあと、城地茂教授によるプログラム紹介、講演者紹介が行われました。

続くプレゼンテーションでは、最初に「JICA 事業概要～JICA ボランティアの活動、国内における開発教育支援」と題し、青年海外協力協会近畿支部支部長・河合憲太氏が、JICAの概要を自らの経験に即して紹介されました。次に「グローバル化時代において高等教育をうけることの意義と社会的責任」と題し、大阪大学・人間科学研究科大学院生の末岡加奈子氏が、日本という豊かな国で高等教育を受ける大阪教育大生の社会的責任を報告され、貴重な体験に会場の学生も聞き入りました。また、広島大学・大学院国際協力研究科・馬場卓也教授が、「内発性から見た21世紀のアフリカ社会における数学教育」と題し、ケニアにおける理科教育の経験を話され、国際教育協力を専攻とする日本の大学院教育について述べられました。筑波大学・教育開発国際協力研究センター・礒田正美教授は、「知識基盤社会における教育協力の価値～日本による文化化」と題し、現地の文化に根付いた教育を四角形の面積計算の事例をあげて解説し、文化の相互理解の重要性を述べられました。最後に本学・実践学校教育講座の秋吉博之教授が、「国際教育協力の実際－海外で学んだこと、教えたこと－」と題し、国際協力は一方的なものではなく、相互の学びあいということを強調しました。続いて、パネルディスカッションに移り、自らも国際教育協力に参加を希望するという学生から熱心な質問が寄せられ、国際活動の希望の高さを実感しました。

国際センター長による開会の挨拶

馬場先生の講演

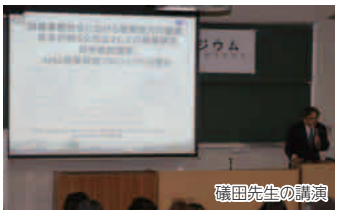
司会（城地先生）


馬場先生の講演

会場の様子

礒田先生の講演

河合先生の講演


礒田先生の講演

河合先生の講演

秋吉先生の講演

末岡先生の講演

秋吉先生の講演

末岡先生の講演

パネルディスカッション

聴講者からの質問

集合写真

奨学金贈呈式
大阪教育大学留学生後援会

大阪教育大学留学生後援会による2013年度奨学金等贈呈式を12月4日（水）に行い，私費外国人留学生に奨学金を授与しました。

留学生後援会は、留学生への経済的支援、地域との国際交流の促進を目的として、地域の支援団体及び本学教職員等により構成された組織で、平成15年度から毎年、留学生に対し奨学金を授与しています。今年度は、寄付団体名を冠した奨学金5人、留学生後援会奨学金6人、大阪柏原ロータリークラブ教育支援金3人の計14人に授与しました。

留学生代表として挨拶した大学院2回生のコウショウリュウさん（中国）は「私の夢は日本の理科教育を体験して、進んでいる科学的な理科教育理念を中国に伝えることです。（中略）今回留学生後援会奨学金をいただいて、私はこの貴重なお金を無駄がないように使って、自分の夢に向かって努力していきたいと思います。誠にありがとうございます」とお礼の言葉を述べました。

留学生後援会では、今後もこの制度の拡充をめざし支援の和を広げていくことにしています。

地域の国際交流団体による交流活動

グローバル香芝

ホストファミリープログラム

11月9日（土）、いつも本学の留学生のために様々なイベントを企画、開催してくださる「グローバル香芝」の主催で恒例の「秋季ホストファミリープログラム」が実施されました。この日は渡日したばかりの留学生24名が参加し、初めて体験する「日本の家庭」との出会いに胸を高鳴らせました。

今回はまず初めに一人一人の自己紹介と合わせて、それぞれの国でのクリスマスあるいは新年の過ごし方を紹介する試みが行われました。留学生たちは思い思いに写真や動画を準備して、懸命に自分の国の風習を伝えようとし、ホストファミリーの方々も興味深げに耳を傾けておられました。その後、学生は一人あるいは二人ずつ、それぞれマッチングした家族のお宅へ招待されました。

留学生の間では日本の家庭を実体験できることから人気のあるホストファミリープログラムですが、たとえ言葉や文化は違っても「家庭の温かさ」は世界共通なのだと、日本のお父さん、お母さんと過ごした後の留学生の笑顔を見て感じます。

ホストファミリーの皆様、本当にありがとうございました。

自己紹介とともに、自国の文化について紹介する留学生達。

交流会終了後に全員でパシャリこの後各ご家庭に伺いました。

シニア自然大学校

門松づくり体験

12月18日（水）、シニア自然大学校の皆様主催により、今年度も恒例の「門松づくり」体験を開催していただきました。

参加した約30名の留学生達のために立派な孟宗竹や南天などの材料が用意されました。留学生が悪戦苦闘すること1時間半、シニア自然大学校の皆様にやさしく手ほどきいただきながら、立派な門松を完成させました。途中、南天の枝に蟷螂の卵があり、留学生の中でちょっとした騒ぎになりましたが、中国語から英語、フランス語と次々に翻訳され、国際協力で騒ぎも収まりました。門松づくりは留学生にとって、七夕の笹飾りとあわせて大人気の体験プログラムです。

普段は勉学に勤しむ留学生達ですが、こうして束の間のひとときを地域の皆様と交流し、自然に触れ合う素晴らしい機会を満喫していました。シニア自然大学校の皆様、本当にありがとうございました。

柏原市人権推進課

「異文化の暮らしを学習しよう」

柏原市フローラルセンターで毎年2回実施されている講座、「異文化の暮らしを学習しよう」では、本学の留学生が講師を担当しています。11月20日（水）には、チリ出身のフェリペさんが母国の生活や文化について紹介しました。フェリペさんは、母国では特別支援の教師で、本学で日本の特別支援教育について学んでいます。

フェリペさんは、全長4630kmと南北に細長い国チリの北部、中部、南部のそれぞれの地域の自然や風土、料理、音楽やダンスなどについて、映像を交えながら詳しく話しました。北部のアタカマ砂漠から南部のサンラファエル湖の氷河まで、変化に富んだ自然の美しさが特に印象的でした。

聴講された市民の皆様からは「チリはワインのことしか知らなかったが、いろいろ知ることができて興味深かった」「音楽のリズムを入れたビデオの説明がとても上手に構成されていた」等、様々なご感想をいただきました。毎回楽しみにされている方も多く、地域に貢献できる国際交流の取り組みとして、今後も継続したいと考えています。

柏原市

ふるさと柏原ぶどう狩りツアー

8月31日（土）、柏原市主催の「ふるさと柏原ぶどう狩りツアー」に本学留学生をご招待いただき、14名がツアーに参加しました。参加した留学生は友人達と沢山のぶどうを観察し、「これだ」と思ったぶどうを嬉しそうに収穫していました。自分の手で収穫し、友人や地元の方々と交流しながら味わった「柏原ぶどう」は、特別な味となったことでしょう。

教養学科文化研究専攻日本・アジア言語文化コース3回生　李 双カイ（中国出身）
葡萄狩りは夏休みの活動でしたが、今までもその日の思い出が残っています。当日は天気予報では雨が降るそうでしたが、朝から本当にいい天気でした。バスで葡萄狩りの会場に移動して、入場券をもらいました。葡萄狩りだけではなく、勾玉を作ったり、布を染めたり、午後も楽しい葡萄の皮飛ばし試合がありました。熱い夏の日、友達と一緒に葡萄園で葡萄を食べたり、遊んだり、とても楽しかったです。もし今度機会があれば、また参加したいと思います。

教養学科数理科学専攻3回生　譚 シン（中国出身）
ぶどう狩りは思った以上に楽しかったです。ぶどうを食べながら、地元の人々と話して、日本文化も一層深く理解できました。特に、皮飛ばし大会で、地元の人たちと競って、イベントが盛り上がりました。よい一日を送りました。

教員研修留学生　金 唱淑（韓国出身）
柏原市のぶどう狩りイベントは楽しかったです。ぶどう畑にいっぱい実ったぶどうを取って、すぐ食べて本当に美味しかったです。いろいろな体験活動がありましたが、一番面白かったのはぶどうの「かわ飛ばし大会」。最初はみんな恥ずかしかったですが、自分の順番になったとき一生懸命飛ばしました。ぶどう狩りイベントは日本の文化を知るいい経験になりました。

日本文化研修

夏季日本文化研修 浮世絵体験

初めての浮世絵体験!

隈取(くまどり)を真似てハイ、チーズ!

有意義な1日を過ごしました

平成25年夏の日本文化研修は、にぎやかな道頓堀界隈にひっそりと立っている上方浮世絵館に行きました。上方浮世絵は、主に江戸時代の大坂で制作された浮世絵です。研修当日は常設展に加え、「水のある風景と上方浮世絵」と題された特別展示も行われていました。館外は猛暑でしたが、水辺の景色が描かれた浮世絵を前に留学生たちも涼やかな気持ちになり、また親切な館長に説明をしていただきながら、熱心に作品を鑑賞していました。また、浮世絵制作体験の時間もあり、留学生たちは館長や職員の皆様に手伝っていただきながら、一生懸命に絵の具を付け、刷りの作業に挑戦していました。

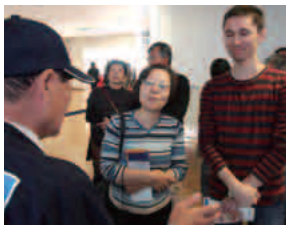
秋季日本文化研修 兵庫県姫路方面

2013年10月31日(木)、秋季日本文化研修を実施しました。留学生に日本の伝統文化をより深く理解してもらう事や、留学生と日本人学生(チューター)との交流を図る事を目的とする日帰りのバスツアーです。今回は留学生62名、日本人学生10名、引率教職員4名が参加し、兵庫県姫路方面に出発しました。

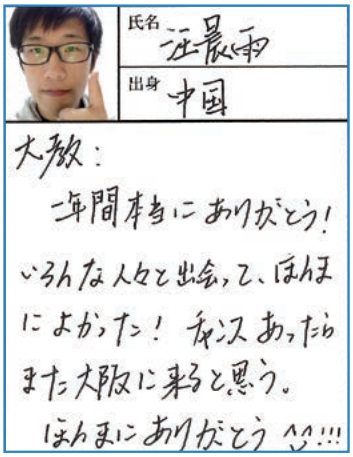
午前中は姫路城を訪れ、大天守保存修理工事中の姫路城を見学しました。留学生達は水堀や外壁等の写真をたくさん撮り、城に入る前から興味津々な様子でした。その後城の内部に場所を移し、工事の様子を見学しました。なかなか見る機会のない工事の様子を目の前にした留学生達は、姫路城の職員に多くの質問を投げかけており、日本文化のより深い理解に繋がった様子でした。

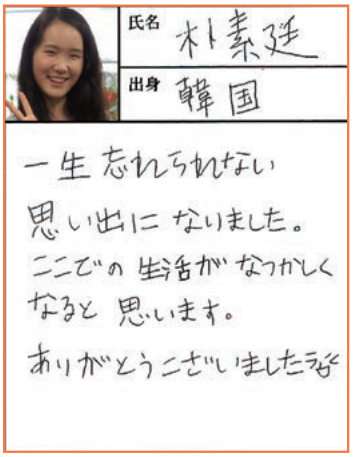
昼食をはさんで、午後からはキッコーマン食品高砂工場を訪れ、しょうゆが作られる様子を見学しました。まずしょうゆについて工場の方に講義をして頂いたのですが、「新鮮なしょうゆは黒色ではなく赤色です」という説明と共に見せて頂いた赤く輝くしょうゆには、感嘆の声が上がっていました。その後工場に移り、発酵させるために一面に敷き詰められた大豆や、しょうゆを搾り出す大掛かりな機械を見学しました。しょうゆは世界中で販売されているので留学生達にもおなじみの調味料ですが、作られる行程を見るのは初めての学生が多く、興味深い様子で見学していました。

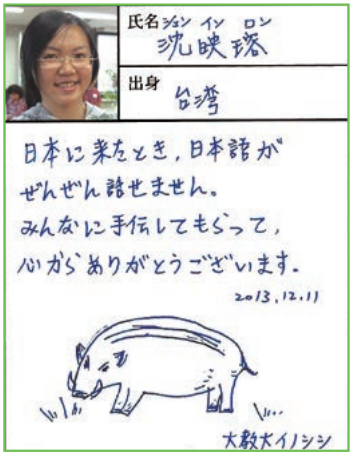
帰り道では楽しかった、勉強になったという声が多く、非常に充実した研修になったのではないでしょうか。

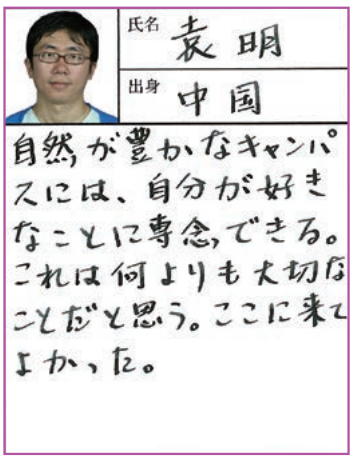


平成25年度 後期修了 留学生メッセージ









学部 田雪

大学院 尚 雅キン

学部 邱 艶淋

「ありがとう！大教大!!」 ～代表あいさつ～ 学部・院を卒業する留学生より

韓 菁（カン セイ／中国）
2010年4月入学
所属：教養学科文化研究専攻
　　社会文化コース
指導教員：西村 貴裕 准教授

～大学生活を振り返って～

大阪教育大学で過ごした四年間は私の一生の宝物とも言えます。大学生活への期待をもって、毎日わくわくした気持ちで学校に来ています。もちろん、失敗や挫折などいっぱいありました。まず大学での勉強は今までの勉強とは違い、自主的な勉強と人前での発表が多かったです。外国人の私にとっては、極めて困難でした。それに慣れるまでは一年間かかりました。最初はただ先生の言うとおりに課題を提出するために作業をやっていました。自分では頑張ったつもりでしたが、先生から返ってきた言葉は「あなたはただ提出するために課題をやりました。中身は全然ありません。考えてないから中身がないものになるのです。」当時の私はその言葉にすごくショックを受けました。しかし、失敗したらそこで終わりではありません。失敗するからこそ成長する自分が楽しみです。そう自分に言い聞かせて、真剣に課題に取り組み始めました。結果はもちろん、努力したものは必ず報われます。自分が認められた時の喜びは一生忘れられません。大学では、勉強以外に国際センターの先生方にも大変お世話になりました。楽しく大学生活を送るために、国際センターの先生方がいつも色々な行事を開催したり、困ったことがあったら助けてくださったりします。この大学でたくさんの出会いが生まれました。勉強意欲の扉を開いてくれた先生、親友と呼べる友だち、異文化交流の友だちも出来ました。人間は一人で生きていられません。現代社会が進歩するとともに、人間関係も複雑になっています。大阪教育大学では様々な人に出会うチャンスがあります。自分が成長するために、チャンスを逃さず、コミュニケーション力を磨いてきました。最後に、この四年間の大学生活を通じ、自分がこれからやりたいことがわかりました。大学卒業後の進路は日本で就職し、働くことに決まりました。人との付き合い、努力したら認められる会社を目指し、内定をいただきました。これからの人生の中でも、人との付き合いなしでは生きていられません。大学で習ったことをこれからも果たしていきたいと思います。

余 澤清（ユ ゼチン／中国）
2012年4月入学
所属：大学院教育学研究科
　　学校教育専攻
指導教員：久田 敏彦 教授

2011年に来日して、既に2年が過ぎました。大阪教育大学大学院へスムーズに入学することができ、2年4か月に渡った私の日本留学が、もうすぐ終了します。

「初心忘るべからず」と言う言葉を常に心に刻み、大阪教育大学に入学当初から私は大学院に合格することを目指して、ひたすら勉強しました。大変忙しい日々のなかで、自分の不甲斐なさを感じることも多々ありました。しかし、念願の大学院に合格し、自分が興味をもった研究ができて、充実した大学院生活を送っています。

よく友達に「留学中における一番の思い出は何?」と聞かれますが、数々の楽しい思い出の中から一番を選ぶ事はできません。やった事、見た事全てが新しく新鮮な思い出です。

日本での留学中は、日本語の向上や異文化理解だけではなく、自分の可能性や視野を広げ、これらの力を仕事に生かすことを目標に頑張ろうと思っていました。そして、今年の2月から就職活動を始めました。就職活動でステキなご縁に恵まれ、希望した会社に内定をいただくことができました。自分をよく知り、就職活動の軸を持つことが大切だということを身にしみて感じました。これからも初心を忘れずチャレンジしていきたいと思います。

最後に留学するにあたって、大阪教育大学の方々、いつも周りから暖かく見守って下さった国際センターの先生方、そして家族、友達、先生、その他関わって下さったすべての人に感謝します。どうもありがとうございました。

林 穎（リン エイ／中国）
2010年4月入学
所属：教養学科自然研究専攻
指導教員：片桐 昌直 教授、
　　辻岡 強 教授

私は林穎と申します。中国の福建省から来ました。大教大に入学して、あっという間に三年半経ちました。この三年半の間にいろんな人生初体験ができました。国際交流フェスティバルに参加することで、いろんな国の料理を楽しめ、初めて着物を着ることもでき、すごく楽しかったです。日本文化体験研修もすごく印象でした。特にテレビでしか雪景色を見たことがなかった私には二月の北海道雪景色、函館の夜景、小樽のガラス製品の美しさは今でも忘れられません。

4回生になってから、卒業研究を始めて、研究の大変さがよくわかりました。先生と先輩たちのご指導のおかげで、やっと成果が出ました。この研究結果で光化学討論会と応用物理学会に参加することもできました。大学院の試験勉強と学会発表準備の時間が重なって、8ー9月はすごく大変でしたが、自分にとって、いい体験でした。

大教大に入って、本当によかったと思います。学業面では、素晴らしい教授の下で、優しい友達と良い環境で勉強ができました。生活面では、国際センターの先生方が私達留学生の生活の隅々まで配慮してくださり、本当に感謝しております。これからの二年間もよろしくお願いします。

卒業おめでとう!

平成25年度卒業・修了見込み留学生

学部……17名　大学院……13名

平成25年度 修了（見込み）留学生

日本語・日本文化研修留学生……10名（前期）　研究留学生……1名（後期）
教員研修留学生……7名（後期）　交換留学生……23名（前期18名・後期5名）

国際センターの活動

国際センターでは、年間を通して様々なプログラムを実施しています。
ここではその一部をご紹介します。

韓国文化体験研修「韓国文化体験研修を通して」

山本 絵理佳（ヤマモト エリカ）
学部2回生
教養学科文化研究専攻
日本・アジア言語文化コース

私は9月2日から14日までの13日間、韓国文化体験研修に参加しました。この研修は大まかに言うと韓国語の講義、小学校見学、文化体験の3つで構成されていました。

まず韓国語の講義では韓国人の先生から韓国語を教えてもらいました。日本語は全くと言っていいほどなくて、初日はついてくのが大変でした。ジェスチャーを交えたり辞書を使ったりして先生とコミュニケーションをとっていると、しだいに緊張もとけて授業が楽しくなってきました。最終日には先生の言葉も大体わかるようになり、もっと韓国語の授業を受けたくなりました。

次に小学校見学では事前講義で日本の小学校との違いを学んでいましたが、実際の小学校は想像以上でした。授業は黒板はほとんど使わずモニター中心で、映像や音楽などさまざまな方法で学習していました。私が1番驚いたのは授業中の生徒の様子です。班別対抗で進めているせいか全員が手をあげていました。先生も生徒もどちらも楽しそうで、先生という職業に魅力を感じました。

最後は文化体験についてです。初め「文化体験よりも自由時間にして買い物に行きたい」と思っていました。しかし今振り返ると、文化体験をさせてもらえてよかったと思います。友達との旅行では行かないだろう所に連れていってもらって、綺麗な景色や美味しいご飯、人との出会いなど様々な思い出が出来たと思います。もちろん自由時間もあり、参加メンバーだけで電車に乗って買い物に行くことも出来ました。

私はメディアを通した韓国じゃない韓国を見てみたいと思って研修に参加しました。実際に行くことで私は韓国という国が好きになりました。お世話になった人に自分の言葉で感謝の気持ちを伝えられるように、韓国語の勉強を頑張りたいと思います。감사합니다!

ドイツ語学研修

信田 奈都紀（ノブタ ナツキ）
学部2回生 教養学科芸術専攻美術コース

1ヶ月という期間で、夏休みの間にとてもいい経験ができました。ドイツ語の聞き取りが楽になったことはもちろん。簡単な自己紹介のやりとりが出来るようになりました。

平日は朝から文法の授業と昼から会話練習がありました。授業を聞き取れない時は、日本人の子や隣の席の子に英語で教えてもらっていました。会話練習の授業は、参加自由なのですが、この授業で普段話さない子達と会話することが出来たので、参加してよかったです。寮はいくつかあって、それぞれ少し条件が違いました。私は学校から遠い寮を借りることになったのですが、通学路は草木が生い茂っていて空気もきれいで、とてもいい環境でした。でも羊の放牧がされているのを見たときは驚きました。

授業後は友達と部屋で宿題して、交代でご飯を作ったり、みんなで集まって天体観測したりと自由な時間を過ごしました。また、参加自由のカラオケに行く集まりやゲーム大会などのレクリエーションがありました。その中の「郷土料理を紹介しあう会」が一番楽しかったです。偶然持っていた羊羹も卵焼きなどの料理と一緒に振舞ったのですが、日本以外ではあまり見慣れない食べ物らしく戸惑っていました。

土日は友達と計画して、必ず旅行をしていました。第一土曜日曜を使ってメルヘン街道の街、ローテンブルクに。あとは日帰りでケルンやコブレンツに行ってきました。ローテンブルクの街並みはかわいくて、クリスマスの飾り付けを売っているお店の内装もテーマパークみたいで感動しました。ただ私たちが行った日は丁度フェスの日でホテルを探すのが一苦労でした。何とかホテルを見つけたときは、みんな安堵で泣きそうでした。旅先では語学研修で学んだドイツ語を実践する機会があり少し緊張しました。通じた時の嬉しさは忘れられません。電車の乗り換えや宿さがしで大変なこともありましたが、乗り越えられたことで海外旅行をする自信がついたように思います。機会があればもう一度ドイツに行きたいです。

アメリカ語学研修「やっぱり、行ってみないと分からない!」

遠藤 朝（エンドウ アサ）
大学院1回生
教育学研究科
保健体育専攻

私は、学部生の頃から日本以外の「世界を自分の目で見てみたい!」「世界中の人々に出会いたい!」「自分の視野を広げたい!」という漠然とした気持ちを持っていましたが、なかなか一歩を踏み出せずにいました。そして、やっと海外に行けるきっかけとなったのが今回のアメリカ語学研修でした。

1ヶ月という短い期間ではありましたが、アメリカの空、土地、海、建物、食べ物、人々すべてに圧倒されながら、英語学習はもちろん、ホームステイや学校訪問といった多くの経験をさせていただきました。英語学習は現地の大学でネイティブの英語に触れながら学ぶことができましたし、ホストファミリーや様々な国の友達と交流する中で、彼らがどういった価値観や興味があるのかということ、また、勉強に対する意識の違いなどを知り、本当に刺激になりました。

さらに、今回の研修で得られたもので大きかったのは、英語の必要性に気づけたということです。日本にいれば日本人ばかりで、英語を使えなかったとしてもそこまで不自由なことはありません。事実、研修に参加する前の私は、グローバル社会と言われながらも、英語を絶対に身につけなければならないものだという認識がほとんどありませんでした。ですが、研修に参加し、いかに自分がコミュニケーションのための英語が身についていないか、英語で自分の意見が言えないかということを思いしらされ、英語でコミュニケーションをとれないことにいらだちさえも覚えました。ただ、こういった気持ちを持てたことは、私にとってすごく新鮮で、やってみないと分からないことを経験し、もっと英語を話せるようになりたいと強く思うことができました。

語学研修に参加して、多くの経験ができたことはもちろん、今まで知らなかったことをたくさん発見できたことが研修に参加したことの大きな意義だったと思います。

最後になりましたが、お世話になった先生方、友人、家族に学生のうちにしかできない貴重な経験をさせていただけたことに心より感謝申し上げます。

会員募集中 留学生後援会入会のご案内

留学生後援会では奨学金支給、国際交流行事支援などを行っております。ご関心をお持ちの皆様は、ぜひご加入下さい。

会費・納入方法

一般会員 学内職員
・一口1,000円/月、または一括・給与から天引き

特別会員 学外支援者
・振込　任意の金額を下記いずれか宛てにお振込下さい

ゆうちょ銀行ぱるる
記号：14120　番号：96618321
名義：大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）

三菱東京UFJ銀行　藤井寺支店
普通預金　口座番号：5210211
名義：大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）

・現金納入

連絡先
大阪教育大学留学生後援会　東・稲山
電話：072-978-3351,3300
E-mail：ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

Over the Rainbow vol.14
年2回発行　第14号　平成26年2月14日（金）発行
編集・発行／大阪教育大学国際センター
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1
http://osaka-kyoiku.ac.jp/ic/index.html
連絡先／電話：072-978-3300　FAX：072-978-3348
E-mail：isc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp